

熱中症予防について学ぼう

連載

第3回 「熱中症警戒アラート始動！」

◆熱中症警戒アラートとは？

熱中症にかかる危険性が極めて高い時に発表される情報です。市では、このアラートが発表された日は、防災無線でお知らせします。（土・日曜日、祝日以外）

◆熱中症警戒アラートが発表されたら

○暑さを避けましょう

- ・ 不要不急の外出は控える
- ・ 外での運動は原則中止/延期
- ・ エアコンを使う（昼夜問わず）
- ・ マスクは適宜外す（屋外で人と2メートル以上確保できる場合）

○水分補給をいつも以上に意識して

- ・ のどが渇く前に。マスクをしていると、のどの渇きに気づきにくいので注意。
- ・ 1日1.2Lを目安に

○高齢者や子ども、障がい者等の方々に積極的な声かけを



熱中症に関する情報をLINEやメールでも配信しています！
詳細は環境省ホームページをご覧ください。



環境省「熱中症予防情報サイト」>>>

問 中央保健センター ☎21-5354



連載 久喜歴史だより(第17回)

久喜高校バレーボール部の活躍



昭和42年の全国高等学校総合体育大会で優勝した久喜高校バレーボール部の凱旋パレードの様子

翌年の第一回埼玉県バレーボール総合選手権大会では見事初優勝を成し遂げています。久喜高校バレーボール部が悲願の全国制覇を達成するのは昭和28年(1953)のことで、この年の全日本バレーボール女子高校選手権大会および国民体育大会の両大会で初優勝し、全国一位の座を勝ち取っています。

埼玉県立久喜高等学校は、創立当初から文武両道に秀でた女子高として、勉強・部活動の各方面において活躍しています。なかでもバレーボール部の歴史は古く、大正10年(1921)の久喜高校の創立とほとんど同時の創部で、大正13年(1924)の第一回埼玉県女子中等学校競技大会では優勝を、昭和4年(1929)の明治神宮競技大会では本大会に出場するなど、優秀な成績を収めています。

戦後は、昭和21年(1946)に埼玉県バレーボール連盟の事務局が久喜高校におかれ、稲山壬子先生(のちの東京オリンピック日本チームの強化コーチ)が初代理事長となりました。

稲山先生は久喜高校バレーボール部の指導者として「どうせやるなら日本一を目指そう」と猛練習を開始し、部員たちもよくそれに応えたことから、

その後の成績も目覚ましく、昭和34年(1959)の全日本バレーボール高校女子選手権大会、昭和42年(1967)の全国高等学校総合体育大会でも優勝を果たしています。さらに、昭和46年(1971)の春の高校バレーの第二回大会では3位に入賞しました。当時のメンバーであった吉田真理子選手は、昭和51年(1976)の第21回オリンピックモントリオール大会に出場し、東京オリンピック以来12年ぶりの優勝を果たして金メダルを持ち帰っています。

郷土資料館では久喜高校バレーボール部の活躍や昭和40年頃の市内各地の様子などを紹介した第11回特別展「1964とその時代と久喜」を9月5日まで開催しています。ぜひご覧ください。

問合せ 郷土資料館 ☎57-1200